7.　福島県　土湯峠湿原　「赤湯」温泉 を訪ねて

akayu00.htm　2003.5.25.　by M. Nakanishi

安達太良連峰「鬼面山・鉄山・くろがね小屋」
そして山麓から湧きだす「赤湯」の温泉
そこは「たたら・和鉄」と関係の深い「産鉄の地」に違いない

国道 115　土湯トンネル　ゲート近傍 2003.5.25.

安達太良・吾妻連峰　土湯峠周辺の「和鉄」関連地名

土湯峠　福島ー猪苗代の峠

土湯峠下土湯湿原内　赤湯温泉への標識

赤湯温泉

福島県を南北に貫く奥羽山脈の南の端　安達太良連峰と吾妻連峰が連なり、両連峰の境にある土湯峠
古くから　東の福島市から山を越えて西の裏磐梯・猪苗代や米沢に出る交通の要衝である。
そのすぐ下の谷間に鉄分を含んだ真っ赤な湯の「赤湯温泉」がある。
すぐ眼前にそびえる安達太良連峰へは「鬼面山・鉄山から安達太良本峰へ」と縦走路が続いている。
たおやかな稜線の中で特徴あるドーム型岩峰を突き上げる「鬼面山」。その向こう「鉄山」の下には「くろがね温泉・くろがね小屋」。
「知恵子抄」に代表される福島県安達太良連峰のもうひとつの知らなかった「鉄」にまつわる顔が見え隠れして興味津津。

今年の春　雑誌「山渓」にこの「赤湯」と土湯峠周辺の湿原に咲く水芭蕉が紹介され、「雪が解け春山のシーズンになれば、一番先に歩こう。出来れば今度は温泉に浸かって安達太良の縦走も・・・」と。

土湯峠下　土湯峠湿原の
水芭蕉　　2003.5.25.

少し遅かったですが　土湯峠湿原の水芭蕉と赤湯温泉を楽しみ　鬼面山を眺めながら安達太良山山麓を土湯温泉までブナ林の新緑を楽しみました。
この「鉄」とゆかりの地名・和鉄産鉄とのかかわり・鬼面山の伝説など鉄にまつわる痕跡はまったくわかりませんでしたが、二本松側から見る安達太良連峰とは全く違った別の堂々とした姿をみせる鬼面連山。そして深い原生林　その原生林の中に沸く「赤湯」の温泉。
それは　もう　たたら・産鉄にふさわしい地に思えました。

福島県の阿武隈から海岸側には行方製鉄遺跡などたたら製鉄が古くから営まれた地。北の奥羽山脈もまたたたら製鉄の地。
「(あだち)たたら山」産鉄にゆかりの「鬼」「鉄山」「くろがね」そして鉄分を含んだ「赤湯」これだけ揃えば産鉄の地　たたらの痕跡があると思うのですが・・・・・・

追伸　帰ってから見つけたのですが　赤湯温泉のあるこの安達太良・吾妻連峰の谷間の下に吾妻小富士から東にこの谷を流れ下る川に「鍛冶川」の名があるのを見つけ益々その意を強くしています。

たたら遺跡の痕跡は見出せませんでしたが、土湯峠から土湯温泉まで約 20㎞、新緑の原生林の中にそびえる鬼面山が　前に見た大空を指差す大江山の酒天童子の像とどこかイメージが一緒に見え、すがすがしい walking でした。
この地もやっぱり　「和鉄の道」につながっていると思える Good な一日でした。

2003.5.25.　　*Mutsu Nakanishi*
夕暮れ　新幹線車窓より　雲のかかった安達太良山をながめながら

●　福島県　安達太良連峰　鉄山・鬼面山・くろがね小屋　そして　その山懐に沸く赤湯温泉

一昨年紅葉の頃　二本松市の岳温泉側から　安達太良山に登り、本峰の隣の鉄山のすぐ下の谷筋の上にあるくろがね小屋にでて紅葉を楽しみながら、湯川渓谷を塩沢温泉に下りました。
絵本の国に迷い込んだような素晴らしい紅葉が楽しめた「くろがね小屋」周辺
「鉄」に関連する地名と紅葉の美しさ・温泉に知恵子抄とは違った美しさの魅力を安達太良山に感じていました。
そして　地図を眺めると安達太良連峰の本峰から北へ連なる吾妻連峰への縦走路には鉄山の先に鬼面山があり、吾妻連峰と安達太良連峰の鞍部　土湯峠に出る。
この土湯峠越えで吾妻・磐梯スカイラインならびに国道が福島から裏磐梯・猪苗代町を結んでいる。また、土湯峠から北へ広がる谷筋にも土湯温泉・野地温泉など土湯温泉郷と呼ばれる温泉が点在。その中　一番土湯峠に近い谷筋の奥に「赤湯」温泉の名を見付けました。
赤湯・鬼・鉄山　そして鍛冶川とそろっては　もう「鉄」ゆかりの地に違いなし。
是非とも安達太良山の福島・土湯峠側を訪ねたくて、いろんなイメージを膨らました。

「赤湯」と呼ばれる鉄分を含んだ温泉は温度が低く鉱泉であることが多いのですが、ここ土湯峠の赤湯温泉は鉱泉ではなく、鉄分を含んだお湯がそのまま湧き出し、吾妻連峰・安達太良連峰へ出かける人の登山基地　秘境の温泉という。
是非とも行きたい場所になりました。

ついでながら土湯峠「赤湯」温泉　最近の秘湯ブームで週末は予約しないと泊まれないとの事
また「赤湯」温泉の地名　日本各地に在り。
一番ファミリアなのは　山形新幹線　「米沢」の次の駅もある山形県「赤湯」温泉。
私も　この山形県「赤湯温泉」の名前が示すとおり、鉄分を含んだ「赤湯」と思って出かけたのですが、湯は「無色透明」でした。　大失敗でした。

そんなこともあって、余計に福島県「赤湯」温泉　是非行って見たい場所でした。
車があれば交通の便もよく「秘湯」というのには　もう　当たらないと思いますが、原生林の中　山と新緑を眺めながらの一軒屋「赤湯」
まあ　リフレッシュにはもってこいの場所です。

Mutsu Nakanishi

7．1.　　吾妻スカイライン 浄土平・吾妻小富士から土湯峠へ

akayu01.htm　　吾妻小富士　お釜の縁より、浄土平　　2003.5.25.

5 月 24 日の日曜日もう水芭蕉も終わりだし、6 月になるとバタバタ。天候は良くなっていくという予報を信じて、朝一番の東北新幹線に飛び乗り、土湯峠　「赤湯」温泉へ。

生憎不安定な天候で新幹線から見る安達太良連峰はすっぽり雲の中。
二本松側西側から安達太良連峰を縦走をして東側の土湯峠・赤湯温泉へ行く計画でしたが、風の強い頂上付近で霧にまかれるのもいやで急遽断念。
福島から吾妻スカイラインを通って直接土湯峠へ出て、赤湯温泉と温泉周辺の湿原　新緑の安達太良山麓を土湯温泉まで山を眺めながらのハイキングに急遽変更。 途中　吾妻連峰　浄土平のバス休憩に吾妻小富士に登ってきました。
吾妻連峰は霞んでいますが、雲なし。残念ながら安達太良は霧の中てすが・・・。 残雪をいただく吾妻連峰の峰々の景観を楽しみました。このまま一切経山へとも思いましたが、今日は「赤湯」へ。
土湯峠へ直接行くバスは吾妻スカイライン経由の観光バスしかなし。路線バスで土湯温泉に行ってタクシー乗るのも癪。観光バスは高湯から浄土平ー土湯峠を通って土湯温泉から福島への周遊バスは路線バスとのあいのこで、吾妻山麓を登ってゆくのにしきりと「知恵子抄」の歌を流している。
乗客は約 5 名。浄土平で約 1.5 時間探索の時間あり。 みんな浄土平で降りる。なんとも不思議な観光バス。

浄土平　&　東吾妻山　遠望　　吾妻小富士　お釜の縁より 2003.5.25.

浄土平はさすがに車が一杯。　眼前の吾妻連峰　一切経山や大顛への山肌には残雪が一杯。
反対側には吾妻小富士がすり鉢状の赤茶けた山肌を見せている。登ればもう少し見えるかも・・・・・
お釜の淵までは階段のジグザグの道を約 15 分　お釜の淵を一周　ゆっくり約 1 時間の walking
お釜の淵から見る山肌の縦縞が美しい。また　東吾妻山から一切経山の大パノラマ。眼下には浄土平そして姥が原湿原が広がっている。
安達太良山が姥が原野の向こう高山・東吾妻山越しに見えるはずですが、雲と霞の中に消えている。
安達太良登れたかも知れん・・・・・

吾妻連峰　吾妻小富士　お釜の淵で　　2003.5.25.

約 1 時間ほどでバスに戻って土湯峠で降ろしてもらうことにする。
道路には雪がありませんが、浄土平から高山から土湯峠周辺までは山の北側になるため、残雪で一杯。
約　20 分程で土湯峠。　雲が流れ　やっぱり冷たい。土湯峠には人影なし。
南の安達太良・磐梯側は雲と霞で景色は見えないが、反対側には今越えてきた吾妻連峰の山が谷筋に大きな裾野を曳いき、この谷を経立ててこちら側は安達太良連峰。
丁度土湯峠はこの谷を詰めた上にあり、両連峰に挟まれた長い谷筋が深い原生林を形成して、土湯温泉・福島市へと北に伸びている。山の南面になるので残雪は消えている。
国道はこの峠の下をトンネルで安達太良連峰を潜り抜けていますが、吾妻・裏磐梯スカイラインのゲイトがこの土湯峠にあり、ここで、土湯温泉から安達太良山の山裾を谷筋に沿って登ってきた旧国道とこの峠で合流し、峠を越えて裏磐梯・米沢へと道が延びている。

土湯峠と峠道脇に植えられた水芭蕉　安達太良山方面はやっぱり雲の中　2003.5.25.

土湯峠の展望所から土湯温泉への道路を下りだすとすぐに道脇に水芭蕉が数株花を咲かせている。
浄土平の案内所の人が言っていた水芭蕉はこれか・・・・もう　葉が随分大きく花が葉に隠れている。
「もう　遅い。・・・」案内所の人の言葉が不安になる。
でも「山渓」には一番春の遅い土湯峠湿原　5 月末まで水芭蕉の群落が見られると・・・・
国道を山肌に沿って 500m 程降ったところから砂利道の幕川温泉への道を 50m 程歩くと谷へ降りてゆく細い山道　土湯湿原への標識が見える。いよいよ原生林の谷筋へ下ってゆく。

土湯峠下　土湯峠湿原への入り口　　2003.5.25

7．2．　土湯湿原の水芭蕉と赤湯温泉　akayu02.htm

土湯峠湿原　　水芭蕉　　2003.5.25.　　土湯峠　赤湯温泉　好山荘

土湯峠のすぐ下のところから　吾妻連峰と安達太良連峰の間の原生林に覆われた谷筋へ降りてゆく。よく整備された登山道が林の中につけられ、ドライブウエイの喧騒から離れ、芽吹きした木々の柔らかい緑が美しい。10 分ほど降ったところから林の中に狭い湿地が点在し、水芭蕉が白い花をつけている。
もう　時期的には少し遅く、葉っぱの方が花より大きくなっている。
人っ子一人いない林の中の湿原に咲く水芭蕉　それはそれで goo なのですが､尾瀬の雄大な燧ｹ岳をバックに広々とした湿原に咲く水芭蕉には負け｡水芭蕉はやっぱり尾瀬　　狭い林の中よりも雄大な自然の中が一番。
でも　湿地の端に座り込み、水芭蕉を見ながら　若葉に眼をやりながら　鳥のさえずりや風の音に耳を澄ますことが出来るのも　もう一つの楽しみ　尾瀬の喧騒の中では味わえぬ。　空気がうまい。
また、山はツツジの季節　　若葉を通してくる陽射しに映えてツツジの赤が美しい。

◆　土湯峠湿原と水芭蕉

幾つか林の中の湿地を抜けると赤湯温泉と野地温泉への別れの標識。
そこから約 10 分ほど林の中を赤湯温泉へ向けて歩くと吾妻連峰を背に林の中に赤い屋根の一軒屋が見えてくる。
森の中の秘湯「赤湯」温泉である。 赤湯温泉への道の途中にも幾つかの湿地があり、水芭蕉が見える。
また　湿地や山肌から湧きだす泉の周辺はまっ茶色　鉄分が混じっている。　この地の山肌に鉄分が含まれている証である。
赤湯も　同じ土地を通して湧き出ているのであろう。

林の中の「赤湯温泉」と　その周辺の赤く濁った土

林の中から不意に赤湯温泉　好山荘の正面の広場に出る。
この赤湯温泉には国道が通る安達太良の山裾新野地温泉から車の通れる道がついているが、そこに飛び出した。山の位置からして　安達太良側の山腹にこの赤湯温泉が建ち、安達太良連峰は山肌と林に隠れて　遠望できないが、林の向こうに堂々とした大きな山塊を見せる吾妻連峰が遠望出来る。
12 時少し前 赤湯温泉　好山荘到着。
山の湯治場の雰囲気がそのままの玄関を入り、この内風呂の赤湯への入湯をお願いする。

赤湯温泉　好山荘

好　山　荘　　55℃の含鉄泉　赤

「日本秘湯を守る会」の提灯のかざった玄関を狭い廊下を通って進むといかにも古ぼけた湯治場の風呂の呈。
狭い脱衣場で脱ぎ、風呂に入る。山の中の昼間　誰も客はおらず、狭い風呂であるが、一人占め。 丸い湯船に不透明の赤い湯が満たされている。湯船に祭られた湯の神さんからコンコンと湯が注ぎ込まれている。55℃の含鉄泉である。お世辞にも綺麗な湯とはいい難いが、これが値打ち。湯船の枠が赤ビカリしている。

有馬温泉の含鉄炭酸泉「金泉」では　お湯につけた手ぬぐいが空気にさらすと見てる間に赤く染まるが、それほどにはならない。
お湯の効能もさることながら、木造の湯屋の大きな窓からは明るい外の青葉が窓一杯に見え、自然の中にいるのが実感できる。

赤湯温泉　窓から見える原生林 2003.5.25

赤湯の温泉と窓からの若葉と林の中を吹き渡る風と鳥の声　いつの時代に開かれた湯治場かは知らないが、土湯峠越の街道筋にあって、多くの人を癒してきた温泉に違いない。

赤湯温泉　と　鬼面山・鉄山・くろがね小屋と並ぶ安達太良の峰々。
安達太良・吾妻連峰の山懐に抱かれ、東北道の本道から西へ北会津・出羽への峠道
その位置に「和鉄の道」のにおいをかぐ。

追伸　　柏に帰って地図を調べると吾妻子富士の下から東へ流れ下る川にも「鍛冶屋川」の名前があるのを見つけました。

7.　3.　　鬼面山に沿って　赤湯温泉から土湯温泉へ　akayu03.htm

「赤湯」を楽しんで玄関にでてくる。
昼間全く人影がないが、秘湯「赤湯」で週末は予約で一杯という。安達太良連峰・吾妻連峰の登山基地としても good な位置。　新野地温泉からのバスを聞くと次は午後 4 時半までないという。
野地温泉から鬼面山に登って安達太良山を縦走してゆくには時間か遅い。

「鬼面山まで登ってきては・・・・」と赤湯温泉の主人はいうが、温泉に入ってゆったりした身にはもう登る戦意なし。

「ツツジは綺麗だし、旧道行けば結構楽しし、山へ登る足持ってれば、2,3 時間下れば土湯温泉。すぐだよ」と主人におだてられ、野地温泉へ出てドライブウェイの旧道を土湯温泉まで約20km ぶらぶらと山を見ながら walk することにした。

林の中の道をドライブウエイに向って歩き出すと、すぐに丸いドーム状の頂とそれに連なるなだらかな稜線を持つ安達太良連峰の北の端　鬼面山の特異な姿が見えてくる。

ドライブウエイに出たところが　新野地温泉で温泉の建物のすぐ横から鬼面山から安達太良本峰への縦走路が伸びている。林の中の登山道を鬼面山の尾根に登ったところが旧土湯峠
　また、ドライブウエイはこの鬼面山の山裾に沿って土湯温泉へ下ってゆく。

鬼面山を見上げるとドライブウエイ側が切り立った崖になり垂直にける落ち、尾根筋はなだらかな傾斜の続く先に急峻な登りの鬼面山本峰がそびえている。
ふっと　大江山山麓の「酒天童子」の像が頭に浮かぶ。　左を向いて天空をかける鬼　そんな感じをうけました。

大江山　酒天童子の像

安達太良連峰　鬼面山　新野地温泉より

小さな山ですが、ドライブウエィからみあげると風格のある「鬼面山」。この山の向こうに箕輪山・鉄山そして安達太良本峰が連なっている。

「鉄の山」をイメージする安達太良山　その山を他国に越えてゆく街道にあって、その道を見下ろす鬼面山そして　行く人を癒す「赤湯」。
たたら遺跡との関連は見つけられないが、福島・奥羽山脈の山懐　きっと　「和鉄」の人達・旅人の痕跡がここにも印されていたに違いない。

安達太良の山裾にへばり付いて下ってゆくドライブウエイを１時間ちょっと下ると土湯トンネルの入り口付近に至る。
この付近からは　残雪を抱いた箕輪山・鬼面山の安達太良連峰が堂々とした姿をみせ、鉄山も左の端にちょっとかおお出している。広い谷間をはさんで反対側には吾妻連峰がまた、堂々とした姿で対峙している。
その上部 この二つの連峰の鞍部　土湯峠周辺からは行く筋かの皮が東へ流れ下る。そのひとつ　吾妻小富士のすぐ下から流れ出た川に鍛冶屋川の名がつけられている。
壁としてそびえるこれらの連峰を越えてゆく街道が土湯峠へ向って伸び、国を越えてゆく。　緑の中の雄大な景色にみとれる。

安達太良連峰　箕輪山　　国道より　吾妻連峰
土湯トンネル出口近傍から　安達太良連峰と吾妻連峰

交通量の多い国道を行かず　また　旧道を歩く。道は良いのに通る車はポツポツ。
ぽかぽか陽気の中　若葉に包まれた林の中を抜けてゆく街道筋の道端にはツツジほか初夏の草花が咲き、天然記念物　アズマシャクナゲ? も一株　山肌にさいているのを見た。
道端では　山へ入って採った山菜のせいりをしている人がいる。
林の中に立ち止まると木漏れ日の中　綿胞子が空を舞い　、小鳥がさえずり、風の音が心地よく響く。
本当にゆったりとした気分での walking となった。まさに　行く手定めぬ風来坊である。

●　土湯温泉への街道筋で見た初夏の草花

ぼちぼち　歩くのがいやになりかけた所で土湯温泉が見えてきた。
道端で声を掛けてくれた車が　「もうちょっとだ」と声をかけて追い越してゆく

今日の私のコース　　吾妻スカイラインー浄土平ー吾妻小富士ー土湯峠ー野地温泉ー土湯温泉のスカイライン周遊 70km のスーパーマラソンをやっていた人達がいたが、みんな走ったり、歩いたり　この 70km を楽しんでいる。
「マラソンなんて　しかも　70km 僕にはとてもと」思うのですが、シャカリキに記録目指すマラソンからは程遠いのどかな光景。　一緒に平行して歩いた人もいて　旧道　一人歩きとは言いながら　楽しい walking でした。

安達太良山に「鉄」にゆかりのある鉄山・くろがね小屋の名を見出し、さらにその先に鬼面山そして「赤湯」温泉があることを知って、土湯峠周辺を walking
「たたら」の痕跡を知ることは出来ませんでしたが、どこまでも続く　原生林の中　赤湯の温泉　そして鬼面山の姿に天空を指す「鬼」の姿を見て、そこを福島から出羽・北会津に続く一本の街道　　この道はやっぱり多くの人達の交流路　ぼくの妄想でしょうが、古くは和鉄の道だったに違いないと思えました。
初夏の陽射しをあびて　山裾をゆっくり歩くのも goo
知恵子抄の安達太良にはっきりと鉄の顔を見て満足の一日でした。
帰りの新幹線の中　スカイラインを走るバスがかけていた知恵子抄の歌が耳について　それを口ずさみながら　夕日の安達太良・吾妻連峰をながめていました。
関西へ帰ると東北がとおくなるなあ・・・・・

2003.5.25.　夕　　東北新幹線　車窓から
吾妻連峰・安達太良連峰を眺めながら　　by Mutsu Nakanishi

福島県　土湯峠湿原　「赤湯」温泉 を訪ねて
安達太良連峰「鬼面山・鉄山・くろがね小屋」　そして山麓から湧きだす「赤湯」の温泉
そこは「たたら・和鉄」と深い関係のある場所に違いない
【完】